

(様式2)

校 種	小	学校番号	5 8	学校名	宇都宮市立西が岡小学校
-----	---	------	-----	-----	-------------

令和7年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・ 市の学力調査の結果から、6年生国語において、「話すこと・聞くこと」の領域では目的意識をもって話を聞くこと、「書くこと」の領域では自分の考えを理由や根拠を用いて書くこと、さらに「読むこと」の領域では描写をもとに登場人物の心情を捉えることなどができている。一方で、「情報の扱い方に関する事項」の領域では、資料の要点を読み取り、わかりやすく整理することに課題が見られる。

6年生算数においては、どの領域も市の平均を上回っている。「変化と関係」の領域では基準量と比較量を捉えて割合を求めること、「数と計算」の領域では通分や約分を伴う分数のたし算やひき算、「図形」の領域では様々な条件における三角形や四角形の面積の求積、「データの活用」では平均の考え方を生活場面に生かすことなどができている。

6年生社会においては、「農業や水産業」の領域では米作の工程について、「国土の自然環境などの様子」の領域では日本の近隣にある国の位置や国旗について、理解の定着が図られている。一方で「工業生産」の領域では、日本の工業の特色について資料をもとに表現することに課題が見られる。

- ・ 県の学力調査の結果から、4・5年生国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で、話を聞いて大まかな内容を捉えることが比較的できている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、漢字を正しく読んだり書いたりすること、「書くこと」の領域では、段落ごとのまとまりを意識して文章を書くこと、「読むこと」の領域では、文章を読んで感想を共有することなどに課題が見られる。

5年生算数は、どの領域も県の平均を下回っている。一方で、4年生算数は、「図形」の領域で県の平均をやや上回った。

4年生理科は、どの領域も県の平均を下回っている。一方で、5年生理科は、『エネルギー』を柱とする領域で県の平均をやや上回った。

算数も理科も、基礎的な学習内容が身に付いていない児童が多く見られる。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「勉強が好き。」「学習に対して自分から進んで取り組んでいる。」と肯定的に回答する児童の割合は、市の平均を下回る学年が多かった。
- ・ 「宿題をきちんとやっている。」と肯定的に回答した児童の割合は、1・2・3年生が90%を超え、市の平均を上回っていた。
- ・ 「先生や友達の話をも、最後まできちんと聞いている。」については、肯定的に回答した児童が全ての学年で90%を超え、ほとんどの学年で市の平均を上回っていた。
- ・ 3～6年生に対しての「学校の授業がどの程度分かりますか。」の設問で肯定的に回答した児童の割合は、3・6年生で市の平均を上回っていた。
- ・ 家庭での学習時間に関する質問では、平日の学習時間については、1・6年生が市の平均を上回っており、2・3年生は同程度であった。休日の学習時間については、休日、「ほとんど学習をしていない。」と回答する児童が多い傾向にあり、課題が見られる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・ 体験的な活動や課題解決的な学習に意欲をもって取り組む児童が多い。
- ・ 決められた課題には、真面目に取り組む児童が多い。
- ・ 自分の言いたいことを伝えたり、相手の気持ちや意図を聞き取ったりすることが難しい児童が見られる。
- ・ 習得した知識・技能を活用して課題を解決したり、粘り強く最後まで取り組んだりする態度は十分とは言えない。
- ・ 各教科における基礎的・基本的な内容の習熟についての個人差が大きく、既習事項の定着が十分でないことから、当該学年の学習内容への理解につながらない児童が多く見られる。

2 今年度の重点目標

児童の実態や特性を踏まえ、主体的に学ぶ意欲や学習習慣の育成を図るとともに、基礎・基本の確実な習得を目指した分かる授業（宇都宮モデル・西が岡スタイル）を展開し、確かな学力の定着に努める。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を意識し、ICT環境の活用や特別支援教育の視点を取り入れた授業の充実を図り、学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和7年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 学習意欲を高める指導の工夫

- ・ 興味を高める導入や課題提示の工夫
- 教科等横断的な視点をもった各教科等の関連付けの工夫
- ・ 体験的学習や課題解決的な学習の積極的導入
- ★民間企業や行政の出前授業を活用した体験的学習の実施
- ★□○自力で課題解決にあたる時間の確保
- ペア学習、グループ活動など最適な学び合いの場を設定し、対話による課題解決の場の工夫
- ★目標や内容、個人の理解度に応じた多様な学習形態の工夫（習熟度別学習、少人数学習、養護教諭・学校図書館司書・栄養職員とのT.T）
- ★□○ICT機器やデジタルの力でリアルな学びを支えるような一人一台端末、図書等の効果的な活用

(2) 分かる授業を目指した授業力の向上

- ★□主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル（つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる）」を取り入れた授業の実施
- 児童への言葉掛け、学習方法、教材、AI型学習ドリルなど、個に応じた支援の工夫
- ★□課題提示、教材提示、発問の工夫（特別支援教育の視点を取り入れる。）
- ★□問題解決への見通しを立て、教科の見方・考え方を働かせ、じっくり考える授業の展開
授業の展開
- ★○□児童の発言・考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上
- ・ 学習した経過や学んだ内容が分かりやすい板書の工夫
- 「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明記し、授業の流れや学びが見えるノート指導の工夫
- ★1人1授業の公開による授業研究を通じた教員の授業力向上

★□○授業の終末で学習内容を振り返り，学んだことを共有する場の設定

★可能な限り，教科担任制を取り入れる。（授業の質の向上と学力向上を目指す。）

□系統的な「書くこと」の指導の充実（授業における「書く」機会の確保・発達段階に応じた計画的な学習指導）

（３）基礎学力の定着と家庭学習の習慣化

★○各教科の基礎的な学習内容や話の聞き方，発言の仕方などの繰り返し指導

・T.Tによる朝の学習の時間の効果的・計画的な活用

・単元や学期ごとに復習する機会の設定

★個人差に応じた適切な分量・内容の宿題，自主学習の仕方の支援による家庭学習の習慣化

★「学習習慣定着強化週間」の実施による，家庭と連携した学習習慣の定着と意欲の向上

・学習ボランティアを活用した夏期学習会

・学年・学級懇談会での保護者への家庭学習についての継続的な意識啓発活動